

産地生産基盤パワーアップ事業

都道府県評価報告書

都道府県名 岩手県

I 産地パワーアップ計画（収益性向上タイプ）

1 成果目標

(2) 販売額又は所得額の10%以上の増加

地域協議 会名	整理 番号	地区名	対象作物	取組内容	成果目標	現状												目標												実績												スマート農業推進枠 導入・定着の取組の 実施内容	地域(県又は国を含む) の価格(販売単価)		補正係数	価格補正 後の実績	事後評価の検証方法 (※定量的な検証が できること。)	達成率 (%)	地域協議会等の評価	都道府県の評価	備考
						年度				年度				年度				年度				前年度		目標年度																											
						面積	生産量又は 出荷量	価格(販売単価)	生産コスト	面積	生産量又は 出荷量	価格(販売単価)	生産コスト	面積	生産量又は 出荷量	価格(販売単価)	生産コスト	面積	生産量又は 出荷量	価格(販売単価)	生産コスト	面積	生産量又は 出荷量	価格(販売単価)	生産コスト	面積	生産量又は 出荷量	価格(販売単価)	生産コスト	面積	生産量又は 出荷量	価格(販売単価)	生産コスト																		
盛岡市農 業再生協 議会	4	盛岡市 (玉山地 域除く)	施設野菜 (トマト ※1・イ チゴ・野 菜苗※ 2・レタ ス・キュ ウリ)	下記の取組みを推進 することで、総販売 額の 85%の増加を実現す る。 ①生産技術高度化施 設の整備 ②高品質化及び作業 効率の向上に向けた 農業用設備及び資材 の導入 ③品質向上及び生産 量増加に向けたバイ プハウスの導入 ④育苗施設の整備	販売額の10% 以上の 増加 (総販売額 85%増加)	R3	154,600千円	3.89	ha	施設野菜 235,633 kg トマト 109,867千円 いちご 15,020千円 レタス 900千円 きゅうり 4,000千円 野菜苗 24,813千円	kg・ポ ット	トマト 527円 いちご 1,074円 レタス 753円 きゅうり 333円 野菜苗 50円	単位 円/kg	R3	286,983千円	5.22	ha	施設野菜 437,273 kg トマト 212,888千円 いちご 22,139千円 レタス 1,323千円 きゅうり 5,000千円 野菜苗 45,633千円	kg・ポ ット	トマト 531円 いちご 1,334円 レタス 439円 きゅうり 294円 野菜苗 67円	単位 円/kg	R3	250,686千円	4.95	ha	施設野菜 420,141kg トマト 392,159kg いちご 14,400kg レタス 1,582kg きゅうり 12,000kg 野菜苗 485,470 ポット	kg・ポ ット	トマト 506円 いちご 1,269円 レタス 333円 きゅうり 333円 野菜苗 61円	単位 円/kg 円/ポ ット	トマト 409円 いちご 1,188円 レタス 177円 きゅうり 275円	トマト 388円 いちご 1,180円 レタス 174円 きゅうり 280円	トマト 1.054 いちご 1.007 レタス 1.017 きゅうり 0.982	261,256千 円 (内訳) トマト 209,021千 円 いちご 18,389千 円 レタス 535千円 きゅうり 3,924千円 野菜苗 29,388千 円	【トマト】 概ね目標どりの販売額及び 生産量を達成している。一部 で病害虫被害による収量の減 少が確認されたことから、引 き続き関係機関と共有の上、 適切な栽培を実現できるよう 指導していく。 【いちご】 一部の品種で生産量が安定せ ず、全体の販売額に影響し た。生産を安定させるため品 種の再検討等を指導する。 【レタス】 新型コロナウイルスの影響に よる外食産業の需要減少によ り販路、出荷量及び販売額が 減少した。生産環境は良好で あることから、販路の新規開 拓を支援する。 【きゅうり】 目標よりも高単価を実現して いるが、新型コロナウイルス の影響による外食産業の需要 減少により販路、出荷量が減 少した。需要回復を見込み、 販路の新規開拓を支援する。 【野菜苗】 新型コロナウイルスの影響を 受け、出荷先との取引協議の 結果、出荷量が減少した。病 害対応の改善により良好な生 産環境を確保していることか ら、需要回復を見込み、販路 の新規開拓を支援する。 【全般】 新型コロナウイルスの影響 により飲食店等との取引量が 減少したが、事業効果が発揮 された経営体も確認できた。 目標未達成の経営体について は、外的要因が原因と考えら れる面もあるが、安定した販 売額等を維持、拡大できるよ う、それぞれに対し販路の新 規開拓を支援する。 面積は、労働力不足で作付 けを縮小した経営体があった ため、目標に至らなかった。 労働力不足を解消するよう経 営体に指導し、現在(R4年 度)、経営体は雇用の確保な どに努めており、岩手県から の雇用確保に向けた支援によ り面積を拡大する見込みであ る。 また、各作物等の課題解決 に向け先進地視察等の研修を 実施し、関係機関と連携した 支援を継続して行う。	【トマト】 病害虫被害により収量 が減少したことから、 病害虫防除の徹底な ど、関係機関と連携し て指導を行っていく。 【いちご】 生産量が安定しない品 種があったため、栽培 品種の再検討について 関係機関と連携して支 援を行っていく。 【レタス】 新型コロナウイルスの 影響により販路が縮減 し、販売額が落ち込ん だ。販路の回復に対応 できる生産量を確保す るため、引き続き関係 機関と連携して栽培技 術等の支援を行ってい く。 【きゅうり】 新型コロナウイルスの 影響により販路が縮減 し、販売額が落ち込ん だ。需要回復に対応で きる生産量を確保する ため、引き続き関係機 関と連携して栽培技術 等の支援を行ってい く。 【野菜苗】 新型コロナウイルスの 影響により出荷量が減 少し販売額の増加に至 らなかった。需要回復 に対応できる生産量を 確保するため、引き続 き関係機関が連携して 栽培技術等の支援を 行っていく。 上記の支援に加え、雇 用の確保に向けた支援 や先進地視察研修等 の支援を、関係機関と 連携して継続的に行っ ていく。	80.6%	※野菜苗に ついては、 生産前に取 引先との協 議で価格を 決めての生 産となり、 市況に左右 されないた め価格補正 は行わない。														
盛岡市玉 山地域農 業再生協 議会	1	盛岡市 玉山地 域	施設野菜 (トマト)	① バイプハウスの 新規導入による 生産量増加への取 組 ② バイプハウス を活用した長期出 荷による販売額向 上に向けた取組 ③ 環境制御装置 の導入による生産 量増加への取組	販売額の10% 以上の増加 (総販売額 の118%増 加)	H 27	50,850,000 円	1.44	ha	(出荷量) ミニトマト : 15,000kg 中・大玉 トマト : 138,000k g	ミニト マト : 661 円 中・大玉 トマト : 297 円	ミニト マト : 661 円 中・大玉 トマト : 297 円	R3	111,100,000 円	2.64	ha	(出荷量) ミニトマト : 42,000kg 中・大玉 トマト : 281,000k g	ミニト マト : 661 円 中・大玉 トマト : 297 円	R3	131,958,450 円	2.64	ha	(出荷量) ミニト マト 51,794 kg 中・大玉 トマト 379,970k g	ミニト マト 694円 中・大玉 トマト 253円	ミニト マト 711円 中・大玉 トマト 374円	ミニト マト 591円 中・大玉 トマト 314円	ミニト マト 1.203 ト マト 1.191	157,567,166 円	【現状の販売額】 107,486千円 玉山産 1,600万円 50a × 320万円/10a = 1,600万円 産額 1,600万円 30a × 500万円/10a = 1,500万円 産額 1,500万円 2a × 175万円/10a = 350万円 産額 350万円 JA販売額 66 300万円 100万円/10a = 100万円 【目標】 事業による産額増進により、販売 額118%を目指す。 玉山産額 4,100万円(154%増) 50a × 320万円/10a = 4,100万円 産額 4,100万円(83%増) 2a × 400万円/10a = 800万円 産額 800万円(214%増) JA販売額 66 400万円(214%増) 200万円/10a = 200万円 産額 200万円(137%増) 30a × 375万円/10a = 3,200万円 産額 3,200万円	事業の効果も順調に 発揮し、目標を達成し ている。今後も販売額 の増加を達成してい くよう、引き続き指導 していくものとする。	事業の効果により生 産量が増加し、目標 の販売額を達成する ことができた。栽培面積は 順調に増加しており、 今後も産地の拡大が期 待される。	177.1%	R4評価																		

地域協議 会名	整理 番号	地区名	対象作物	取組内容	成果目標												スマート農業推進枠 導入・定着の取組の 実施内容	地域(県又は国を含む) の価格(販売単価)		補正係数	価格補正 後の実績	事後評価の検証方法 (※定量的な検証が できること。)	達成率 (%)	地域協議会等の評価	都道府県等の評価	備考													
					現状						目標							実績									前年度	目標年度											
					年度	面積 単位	生産量又は 出荷量 単位	価格(販売単価) 単位	生産コスト 単位	年度	面積 単位	生産量又は 出荷量 単位	価格(販売単価) 単位	生産コスト 単位	年度	面積 単位		生産量又は 出荷量 単位	価格(販売単価) 単位										生産コスト 単位	年度	面積 単位	生産量又は 出荷量 単位	価格(販売単価) 単位	生産コスト 単位					
花巻市農 業推進協 議会	6	花巻市石 鳥谷地 区、湯本 地区	露地野菜 (たまねぎ)	【露地野菜産地の形成の推進】 機械化一貫体系の導入による収益性の高い露地たまねぎ生産の取組	販売額の10%以上の増加 (81.7%増)	30	120千円/10a	たまねぎ 2.0 米 8.24	たまねぎ 2,800 米 526	たまねぎ 59 米 208	円 /kg	-	R3	218千円/10a	10.24	ha	3,632 kg /10 a	60	円 /kg	-	R3	155千円/10a	3.43	ha	2,494 kg /10 a	62	円 /kg	401	円 /kg	364	円 /kg	1.102	170千円 /10a	51.0%	7月～8月の継続的な降雨による収穫量(正品率)の減少が重要因の大半を占めるため、関係機関で保管状況等も含め生育状況を確認しながら、目標達成に向けて支援していく。 また、現在、取組主体の有限会社アグリストを含めた近隣の玉ねぎ生産者で勉強会を開催するなど、生産技術の向上に取り組んでいる。 一方、面積拡大が進まない原因として、収穫間際の降雨に影響を受けやすいことにより、新規に取り組み難しいことが挙げられる。 関係機関としても今後の規模拡大につなげられるよう、これまでの取組主体の実績を参考にさらなる栽培技術の向上、普及に努め、産地拡大に向けた取組を支援していく。	7月～8月の継続的な降雨による収穫量(正品率)の減少が重要因の大半を占めるため、関係機関で保管状況等も含め生育状況を確認しながら、目標達成には至らなかったことにより、関係機関と連携して正品率の向上に向けた取組を支援していく。 また、さらなる栽培技術の向上と技術の普及に向けて、関係機関が連携して支援を行っていく。	R4評価		
花巻市農 業推進協 議会	7	花巻市北 上市 遠野市	りんご	外部品質センサーと内部品質センサーを同時に整備するラインの導入	販売額の10%以上の増加 (10.4%増)	平成30 年度	200.4千円 /10a	358	ha	出荷量 2,534	t	283.1	円 /kg	令和3 年度	221.2千円 /10a	358	ha	出荷量 2,600	t	304.6	円 /kg	令和3 年度	158.0千円/10a	358	ha	出荷量 1,854	t	305.1	円 /kg	493	円 /kg	540	円 /kg	0.913	144.0千 円/10a	-271.2%	目標未達成の大きな要因は、凍霜害や霜害などの天災による出荷量の大幅な減少である。凍霜害の発生予測や、それに伴う事前、事後の対策に関する指導の徹底を、関係機関と協力し実施していく。 一方で、販売単価の向上は確認されることから、今後収量が確保されることで目標の達成が見込まれる。	令和3年4月の霜害や同6月の霜害により、大幅な減収となり目標を下回った。 事業の効果により品質が確保でき、単価も向上していることから、今後も連携して目標達成に向けて支援していく。	R4評価
宮古地方 農業再生 協議会	1	岩泉町、 田野畑村	露地野菜 にんじん、 ブロッコ リー	① 高収益作物であるにんじん、ブロッコリーの作付面積拡大に向けた取組 ② にんじん、ブロッコリー栽培の省力化と高品質化、規模拡大による産地力強化を推進するため、にんじん収穫機、兼用管理機、全自動野菜移植機を導入 ③ 水田への精密灌漑の実施による排水性改善及び単収向上 ④ にんじんは、需要が増大している業務用を主体とした契約栽培に取り組み、コンテナ出荷による流通経費を削減 ⑤ ブロッコリーは、認証GAPの取得に取り組み、販売先・消費者へのPRにより単価向上	販売額の10%以上の増加 (10aあたり) (11.9%の増加)	H 29	265,815 円/10a	19.65 ha	3.3 (にんじん) 3.0 (ブロッ コリー) 0.3	112 (にんじん) 69 (ブロッ コリー) 518	円 /kg	R3	297,530 円/10a	10.0 ha	151.4 (にんじん) 113.0 (ブロッ コリー) 38.4	28.5 ha	146 (にんじん) 74 (ブロッ コリー) 360	円 /kg	R3	247,888円 /10a	4.58 ha	184.8 (にんじん) 47.6 (ブロッ コリー) 137.1	21.03 ha	181 (にんじん) 131 (ブロッ コリー) 337	円 /kg	185 (にん じん) 131 (ブ ロッコ リー) 386	円 /kg	181 (にん じん) 131 (ブ ロッコ リー) 337	円 /kg	1.00 (ブ ロッコ リー) 1.145	281,579 円/10a	49.7%	(にんじん) コロナ禍等の社会情勢や「二級河川小本川河川激甚災害対策特別緊急事業」による国連455号線の嵩上げ工事に伴い当該生産地域の農地の一部が買収されたこと、また、工事期間中の迂回路の設定により生産効率が上がらなかったこと等の影響により達成状況は低額であるが、生産量及び販売額の増加に向けて、農業協同組合を中心とした、安定的な出荷に結び付けるための契約取引での出荷先(加工業者、外産業者)の見直しや、農地中間管理事業を活用した農地集約等の支援を行っている。 (ブロッコリー) 一部で「根こぶ病」の被害が拡大してきているが、次作以降の被害軽減及び単収向上に向けて、「根こぶ病防除技術実証圃」を設置し、発生抑制対策技術の普及拡大に取り組みなど、関係機関が一体となった支援を行っていく。 農業協同組合が中心となり、農業改良普及センターと連携し、根こぶ病防除対策等の技術指導を強化し単収向上を図るとともに、出荷先の見直しや農地集約の取組を支援し目標達成を図る。	出荷先の見直しや農地の確保、病害対策など、品目ごとの課題への対策を重点的に実行し、早期目標達成に向けて関係機関が一体となって支援を行っていく。	R4評価				
宮古地方 農業再生 協議会	2	山田町 荒川・豊 間根地区	大豆	① 汎用コンバインを追加導入することにより面積を拡大するとともに、適期収穫により収穫ロスを防ぐ。 ② 不耕起播種機を導入し、適期播種による反収向上を図る。	販売額の10%以上の増加 (10aあたり) (12.4%増)	H 30	10aあたり販 売額 9,683円/10a	30.1	ha	34,290	kg	85	円 /kg	R3	10aあたり販 売額 10,884円 /10a	35.1	ha	44,946	kg	85	円 /kg	R3	18,567 円/10a	30.1	ha	34,350	kg	163	円 /kg	7,996	円 /6 0kg	10,676	円 /6 0kg	0.749	13,818円 /10a	344.3%	10aあたり販売額において目標を達成することができた。産地として、湿害対策、適期播種・収穫を徹底し、さらなる収量増に取り組む。 計画に沿った取組が行われ、目標を達成することができた。今後も、産地の大豆の安定生産に向けた継続的な取組を期待する。	R4評価	

地域協議 会名	整理 番号	地区名	対象作物	取組内容	成果目標															スマート農業推進枠		地域(県又は国を含む) の価格(販売単価)		補正係数	価格補正 後の実績	事後評価の検証方法 (※定量的な検証が できること。)	達成率 (%)	地域協議会等の評価	都道府県の評価	備考	
					現状					目標					実績					年度	導入・定着の取組 の実施内容	事業実施 前年度	目標年度								
					年度	面積 単位	生産量又は 出荷量 単位	価格(販売単価) 単位	生産コスト 単位	年度	面積 単位	生産量又は 出荷量 単位	価格(販売単価) 単位	生産コスト 単位	年度	面積 単位	生産量又は 出荷量 単位	価格(販売単価) 単位	生産コスト 単位												
二戸市農 業再生協 議会	1	二戸市 (浄法寺 地域)	菌床しい たけ	下記の取組みを推 進することで、総 販売額の10%以上 の増加を実現す る。 競争力のある施設 園芸作物(菌床し いたけ)の産地形 成の促進。 ①規模拡大に向け たパイプハウス等 の資材導入(発生 棟、培養棟) ②周年生産にかか る、空調設備等の 機械設備のリース 導入(発生棟、培 養棟)	総販売額の 10%以上の 増加 (138.7%の 増加)	H 29	菌床しい たけ	0.053 ha	31.200 kg	1,156 円/ kg	円	R 3	86,100千円	0.128 ha	77,702 kg	1,108 円/ kg	円	R 3	64,948千円	0.158 ha	65,072 kg	998 円/ kg	円	844 円/ kg	719 円/ kg	1.174	76,199 千円	80.2%	新規3名はR2年11月か ら栽培を開始し、R3年当 初は温度管理等の技術が 未熟であったことで品質 と収量が伸びなかった。 また、既存生産者1名 で体調不良により生産が 休止となり生産量と販売 額が伸びなかった。 一方で既存生産者1名 で発生棟を2棟増設し、 生産量と販売額が増加し た。 ただ、全体を通して新 型コロナウイルス感染孤 天により緊急事態宣言が 発令されるなど飲食業界 の営業時間短縮や休業 さらに消費者の外食自粛 が影響し、業務用の需要 が落ち込んだことで販売 単価が上がらず、目標未 達成であった。 栽培を開始し1年を経 過した新規3名は、経験 と技術の向上に伴い収量 と品質が上がってきてい る。 また、休止していた生 産者も再開見込みであ り、全経営体で導入した 機械等をフル稼働するこ とで、品質と収量が向上 し目標達成が見込まれ る。 今後関係機関(岩手 県、二戸市、JA)が生産 者と連携し、検討会等を 開催しながら、本事業 の達成に向けた生産方式 や経営管理の合理化に 向けたフォローアップを 継続的に進め、支援して いく。	目標は達成しなかつ たが、事業の効果は順 調に現れており、今 後、販売単価の回復を 見込んで機械等をフル 稼働することにより目 標達成が見込まれる。 引き続き地域協議会 と連携して、目標達成 に向けたフォローアッ プを行うなど継続して 支援していく。	R4評価

(6) 労働生産性の10%以上の向上

地域協議 会名	整理 番号	地区名	対象作物	取組内容	成果目標															スマート農業推進枠		地域(県又は国を含む) の価格(販売単価)		補正係数	価格補正 後の実績	事後評価の検証方法 (※定量的な検証が できること。)	達成率 (%)	地域協議会等の評価	都道府県の評価	備考	
					現状					目標					実績					年度	導入・定着の取組 の実施内容	事業実施 前年度	目標年度								
					年度	面積 単位	生産量又は 出荷量 単位	価格(販売単価) 単位	労働時間 単位	年度	面積 単位	生産量又は 出荷量 単位	価格(販売単価) 単位	労働時間 単位	年度	面積 単位	生産量又は 出荷量 単位	価格(販売単価) 単位	労働時間 単位												
花巻市農 業推進協 議会	8	花巻市 花巻地 区、湯 本地区 、太田 地区、 新堀 地区	水稲	ドローン、(食 味)収量コンパ イン、自動操舵 田植機、ロボッ トトラクタ、ラ ジコンポートの 導入	労働生産性 の10%以上 の向上(10.4% の向上)	1	6,068円/hr	414.7 ha	1,534,502 kg	205 円/ kg	51,838.7 h	3	6,701円/hr	414.7 ha	1,574,867 kg	205 円/ kg	48,179.0 h	3	7,259円/hr	414.7 ha	2,380,010 kg	152 円/ kg	44,585.0 h	円	2,287 円/ kg	2,138 円/ kg	1.07	7,767円 /hr	268.4%	事業導入の効果が順 調に発揮され、目標を 達成することが出来 た。 事業の効果により労働 生産性が向上し、目 標を達成した。 今後、事業の効果が 波及し、他の産地でも 労働生産性が向上して いくことを期待する。	R4評価
北上市農 業再生協 議会	3	岩崎、煤 孫、江 釣子地 区	水稲	スマート農業機 械の導入による 生産効率及び生 産力の向上 ①ドローン、直 進アシスト機能 付田植機、水田 センサー及びリ モコン車刈り機 の導入による作 業の省力・軽労 化の取組 ②栽培技術の向 上に努め、収量 の増加に向けた 取組	労働生産性 の10%以上 の向上(10.8%)	1	4,665円/hr	521 ha	2,519,400 kg	107 円/ kg	57,709.0 h	3	5,169円/hr	552 ha	2,849,100 kg	107 円/ kg	58,763.3 h	3	3,858円/hr	384 ha	2,453,313 kg	114 円/ kg	49,677 h	円	252 円/ kg	211 円/ kg	1.194	4,596円 /hr	-13.7%	新型コロナウイルス感 染拡大により外食産業全 体の売上高が落ち込み、 販売金額が低下し、目標 が達成できなかった。ま た、大豆等への転作によ る水田面積の減少や WCSおよび飼料用米の作 付け割合の増加により販 売単価が減少し、生産性 の向上につながらなかつ た。 労働時間の削減の効果 は出ていることから、今 後も関係機関と連携して 支援を行っていく。	R4評価